



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4613		
科目名	危機管理特殊研究 3		
担当教員	美濃輪 正行		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 5		
講義室	1004	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	演習・ゼミナール等		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F 〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 3－H 〔論理的思考力〕理論整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－I 〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 CP1-E1 学識・専門技能 学識と専門技能（20%） CP4-F2 課題解決（20%） CP3-H1 論理的思考（20%） CP4-I1/I3 理解・分析と読解（20%） CP4-K1/K2 ライティングコミュニケーション/オーラルコミュニケーション（20%）		
教員の実務経験	担当教員は、当大学着任前に情報サービスを提供する民間企業に20年以上勤務しておりました。主に開発プロジェクトへの参画が大半であり、多くの問題に取り組んできました。ややもすれば情報サービス業は技術偏重になり勝ちですが、それは必要条件であって十分条件ではありませんし、技術を活かすようなビジネスや利用方法を考案することも重要です。担当教員の实務経験を積極的に講義に活かしていきたいと考えています。（第5～14回）		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生自身が情報技術に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究に取り組み、自信のキャリア形成に繋がるよう、実務教員が実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、各自の研究テーマに基づいて立てた研究計画や、プレゼンテーションに対して研究指導を行います。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		

	(キーワード) 情報セキュリティ、Disaster Recovery、Big Data、AI、サイバー攻撃、サイバー犯罪						
授業の趣旨	■副題 危機管理から考える情報技術の社会への適用の考察 ■授業の目的 近年、コンピュータやネットワークの大容量化、処理の高速化が進む一方、常に新種の手口が発生するサイバー犯罪、SNSの不適切な書き込み、データの独占的な利用、プライバシーの侵害などの問題が次々と表面化しています。本研究クラスでは、これらの社会課題を多角的な視点で考察するものです。企業経営や社会の健全性維持のために、情報システムが抱える課題を自らの興味がある分野で深く考察して、その影響及び解法を求めるにあたっての考慮点等について、受講生個人の見解を形成していくことを目指します。 ■授業のポイント 情報システムの問題を研究しようとするといくつかの技術的な原理も知っておく必要はあります。ただし、本質的にはこれらの知識で問題の解決が完結するわけではありません。本研究コースでは、理解を促すために技術要素も適宜取り上げ、更に情報システムがもたらす問題が意味するものを模索していきます。この工程における成果物は特殊研究2の課題レポートの成果物を洗練するか、研究レポートのドラフト版として新規作成して、受講生は提出します。各回で受講生または教員が適宜ケーススタディを取り上げていきます。本クラスでは好奇心旺盛かつ既成事実や自己の知識レベルにとらわれない自由な発想が奏功します。受講生の積極的な参画を期待します。必要に応じて授業に取り上げるに相応しいケーススタディを含めます。						
総合到達目標	■ 実社会で発生している危機管理に関する問題を解決するために、危機管理の実体を洞察する。 ■ 具体的には次のような目標を掲げる。 ・ 危機管理特殊研究2で学んだことを振り返り、危機管理能力及び情報技術の視点を意識して取り組むべき課題を選定する。 ・ 課題が与える社会的な影響を類推し、時系列及び空間的な観点から課題を分析する。 ・ 課題が関係する因果関係を把握、複数の解決方法を案出し最適解を検討する。						
成績評価方法	■研究レポート作成計画書及び 研究レポート・ドラフト版文書（60%）：適用ルーブリック E1・F2・H1・I1・I3・K1・K2 (評価の観点) * ガイドに基づいて研究レポートの作成計画とドラフト版を編集、成果物とその発表内容について評価します。 (フィードバックの方法) * 成果物を確認して、教員が各学生に個人指導を行います。 ■ 授業参加度（40%）：適用ルーブリック C1 (評価の観点) 授業に参加して積極的に意見を述べ、教員からの質疑に応答した結果を評価します。また、理解度を確認するための小テストを実施する場合もあります。 (フィードバックの方法) 出欠情報としてポータルシステムに公開し、それ以外については個別に評価を公開します。						
履修条件	「情報システム論」の知識や手法を理解していることが望まれます。未履修の学生は教員指定の教材を使ってこれらの知識を修得すること。						
履修上の注意点	特にありません。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス（コース目標・運営・評価） ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目標、運営方法、講義の構成、評価方法について説明します。(I1) ③予習（240分） 危機管理特殊講義2の研究レポートの成果物を見直して、レポートの品質や編集行程の改善策を考えること。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 研究レポート作成計画ガイダンス ②授業概要 研究レポート・ドラフト版作成のためのガイダンスを実施します。この回以降はケーススタディを取り上げます。(I1・H1・I3) ③復習（240分） 研究レポート・ドラフト版の方針と作成計画を立案して文書化すること。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（コース目標・運営・評価） ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目標、運営方法、講義の構成、評価方法について説明します。(I1) ③予習（240分） 危機管理特殊講義2の研究レポートの成果物を見直して、レポートの品質や編集行程の改善策を考えること。	2	①授業テーマ 研究レポート作成計画ガイダンス ②授業概要 研究レポート・ドラフト版作成のためのガイダンスを実施します。この回以降はケーススタディを取り上げます。(I1・H1・I3) ③復習（240分） 研究レポート・ドラフト版の方針と作成計画を立案して文書化すること。
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス（コース目標・運営・評価） ②授業概要 ガイダンスとして講義の方針と目標、運営方法、講義の構成、評価方法について説明します。(I1) ③予習（240分） 危機管理特殊講義2の研究レポートの成果物を見直して、レポートの品質や編集行程の改善策を考えること。						
2	①授業テーマ 研究レポート作成計画ガイダンス ②授業概要 研究レポート・ドラフト版作成のためのガイダンスを実施します。この回以降はケーススタディを取り上げます。(I1・H1・I3) ③復習（240分） 研究レポート・ドラフト版の方針と作成計画を立案して文書化すること。						

3	①授業テーマ 研究レポート作成計画のレビュー① ②授業概要 立案したレポート作成計画を発表して相互にレビューします。(E 1・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2) ③復習 (240分) レビューを受けて各自の研究レポート計画を再考すること。また適宜研究レポート・ドラフト版の執筆にとりかかること。
4	①授業テーマ 研究レポート作成計画のレビュー② ②授業概要 立案したレポート作成計画を発表して相互にレビューします。(E 1・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2) ③復習 (240分) レビューを受けて各自の研究レポート計画を再考すること。また適宜研究レポート・ドラフト版の執筆にとりかかること。
5	①授業テーマ 研究レポート作成計画のレビュー③ ②授業概要 立案したレポート作成計画を発表して相互にレビューします。(E 1・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2) ③復習 (240分) レビューを受けて各自の研究レポート計画を再考すること。また適宜研究レポート・ドラフト版の執筆にとりかかること。
6	①授業テーマ 研究レポート作成計画のレビュー④ ②授業概要 立案したレポート作成計画を発表して相互にレビューします。(E 1・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2) ③復習 (240分) レビューを受けて各自の研究レポート計画を再考すること。また適宜研究レポート・ドラフト版の執筆にとりかかること。
7	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー① ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習 (240分) レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
8	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー② ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習 (240分) レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
9	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー③ ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習 (240分) レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
10	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー④ ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論

	旨展開の視点から検証します。 ③復習（240分） レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
11	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー⑤ ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習（240分） レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
12	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー⑥ ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習（240分） レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
13	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー⑦ ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習（240分） レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
14	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー⑧ ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表して相互にレビューします。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 1・K 2)。担当教員の実務経験を踏まえて、実効性、実現性、論旨展開の視点から検証します。 ③復習（240分） レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。
15	①授業テーマ 総括 ②授業概要 全員のレビューが終わった時点で、意見を相互に交換します。(E 1・F 2・H 1・I 1・I 3・K 2) ③復習（240分） レビューを受けた後、各自の研究レポート・ドラフト版を修正して提出のこと。
関連科目	情報技術と社会(RMGT1308S)/情報システム論(RMGT3576)、サイバーセキュリティ論(RMGT 3573)、デジタルフォレンジック(RMGT 3577)、情報法(RMGT 3471)、危機管理特殊講義2（デジタルリスク）(02060024)が関連します。
教科書	特にありません。講義で使用する資料は教員から提供します。
参考書・参考URL	講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に公開します。 ■オフィスアワー 開講時に公開します。
研究比率	■ 危機管理四領域との対応 情報セキュリティ：75% 災害マネジメント：15% パブリックセキュリティ：5% グローバルセキュリティ：5% ■ 危機管理と法学との割合 危機管理：95% 法学：5%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.